

咲「ドロー！モンスターカード！」

シベリア大ウナギ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

咲—s a k i—と遊戯王のクロスオーバーです。

麻雀のマの字もなく、咲キャラたちが超能力デュエル（サイコデュエルに非ず）を繰り広げる予定です。

といっても清澄内とVS龍門洩しかやる予定はありませんが…

初投稿なので、ミス・駄文も多くなるので注意してください。

ソリティア、禁止カード、プレミ、意味不明な構築もごさいます。ご注意を。

目次

| | |
|------------|----|
| 入学 | 1 |
| 決闘！ 咲VS京太郎 | |
| その1 | |
| まずは | |
| 小手調べ | 6 |
| 疑念 そして再戦 | 21 |

入学

20XX年！

かつては戸籍がデツキといわれるほど隆盛していた遊戯王はある程度の収束を見せ
ていた！

それでもほかの多くのスポーツと同じくらいにファンも多く、一部のプロがおり、決
闘推薦など趣味の領域としては大きな力持っていた！

これはそんな遊戯王に青春をかける、少女たちの物語である…

京太郎「咲く食堂行こうぜ！」

咲「また？昨日も一昨日も行ったよね？まあいいけど」

京太郎「イヤー悪いな、咲。ここのレディースランチマジでうまくてさ」

く食堂く

ガタン！ビリビリ！

咲「はい！レディースランチ！って何やってんの？京ちゃん」

京太郎「ん？咲も見たことぐらいはあるだろ？遊戯王パック」

咲「そうじゃなくて！なんでそれをごはんの前に開けてるの!？」

京太郎「大丈夫だ。飯の時も剥く。」

咲「そういう問題じゃないんだけど…まあ、とりあえずたべようか」

京太郎「そうだな！いただきまーす！」

ビリビリ！

咲「はいいただきまます。つてやつぱりうるさいよ、それ。カードが汚れたらどうするの…」

京太郎「それはないぞ？なんか精霊の加護かなんかがウンタラで汚れないんだと。つていうか咲も剥くの手伝ってくれよ〜」

咲「もう、なんで私が開けなきゃいけないの〜？まあ、2，3パツクぐらいはいいけどさ〜」

咲（なんだか懐かしいなあ最後に決闘したのいつだったかなあ）

——強奪！強欲な壺！強引な番兵！セメタリー・オブ・ファイヤー！——

——フェリス！ウォルフ！スーポア！スターダスト！ホープ！——

——何その黒いカード！ズルイ！——

咲！咲！

京太郎「咲！」

咲「うわ！びっくりした〜どうしたの？京ちゃん」

京太郎「どうしたのじゃねえよ！カード持った瞬間からなんか固まってたからさ、
いつたいたいどうしたんだ？」

咲「大丈夫。ただ思い出に浸ってただけ」

京太郎「浸ってただけ、ねえ…とりあえず、食おうぜ」

咲「いつたいたい誰のせいで中断したと思ってるの…」

ビリビリ！

咲のカードパックスの中身

影星軌道兵器ハイドランダ―

妖精伝姫シラユキ

強欲で貪欲な壺

錬装融合

百万喰らいのグラットン

京太郎「お！なかなかいいカードじゃってなにいい!?」

咲「ど、どうしたの京ちゃん？なにかあったの？」

京太郎「……咲、このカードおまえにやる。」

咲「へ!?!なんで!?!」

京太郎「たぶんそれはおまえのカードだ。おまえが持つて……いや、違うな、こういう時は……ゴホン」

京太郎『ラッキーカードだ。君のもとに行きたがっている。』

咲「……にでないよ、京ちゃん」

京太郎「あんま痛いところつくなくよでも嘘じゃないぞ? オリジナル5枚なんて初めて見た」

咲「オリジナル?」

京太郎「ほら、左下にパスワードみたいなものがあるだろ? だからだ。」

咲「それって普通の事じゃないの?」

京太郎「やつぱりか……ふつうはそこに replica って書いてあるんだがあんまり見たことないんだな?」

咲「うん……そんなカード2、3枚しか見たことないよ。っていうかそんな貴重なカードならなおさら返すって!」

京太郎「じゃあ俺と決闘してくれないか?」

咲「へ?」

京太郎「そんなにカードに愛される咲と決闘したいんだって。どうせデツキも今持つてるんだろ？」

咲「やだよ！久しくやってないからすぐく弱いし！」

京太郎「フフフ…生徒手帳47ページの右下をご覧ください！」

咲「えーつと…『本学の生徒は決闘を挑まれた場合時間の変更などはよいが、決闘から逃げてはならない』!?何この校則！」

京太郎「分かってももらえたようだなにより。さあ、決闘だ！」

咲「わかったよ…食べ終わったらね？」

京太郎「よっしゃ！食うか！」

次回！決闘！

決闘！ 咲VS京太郎 その1 まずは小手調べ

「決闘室」

「決闘！」

京太郎「俺の先行！まずは『トレード・イン』発動！

手札から『墮天使スベルビア』を捨てて2枚ドロー！」

咲「…なんか意外。京ちゃんって戦士とかドラゴンとか使いそうなのに。」

京太郎「ゲツ…なんでバレるんだよ…手札から『神秘の代行者 アース』を召喚して効果発動！」

『創造の代行者 ヴィーナス』をデッキから手札に加える！」

咲「…そのカードたちで戦士とかドラゴン？」

京太郎「いや、こっちは最近作ったサブだ。友達にこれの弱点を自分で感じてみろってさ。さらにカードを一枚伏せてから『ヴィーナス』を捨て、『一撃必殺！居合ドロー！』を発動！」

咲「！ でもそれじゃ4000ダメージしか与えられないよ！」

京太郎「いやいや、なんで引ける前提なんだよ…その口ぶりなら効果は知ってるな？」

フィールドの数……3枚のカードをデッキの上から墓地に送り、ドローして、同名カードならフィールド全破壊してバーン、違ったら墓地から送った分デッキに戻す。本当はヴィーナスの後に使いたかったんだがな……ドロー！」

ドローカード：『テラフォーミング』

京太郎「お！ラツキー！ドローカードは『テラフォーミング』。よって墓地の『トレイドイン』、そしてデッキの1番目と2番目にあつた『天空の聖域』と『ワン・フォー・ワン』をデッキに戻す！」

咲「なるほど……そっちが目的なの。でもあんまり今は意味くない？」

京太郎「だからいったら？ヴィーナスの後で使いたかつたつて。それに今回の目的は、手札コストだ！さつき伏せた『死者蘇生』発動！墓地から『墮天使スぺルビア』を蘇生！さらに効果で『創造の代行者 ヴィーナス』を特殊召喚！そこからさらに『神聖なる球体』2体を特殊召喚！さらに、『テラフォーミング』で『天空の聖域』を手札に加えて発動する！」

京太郎LP8000↓7000

現在の盤面

墮天使スぺルビア：ス

創造の代行者ヴィーナス：ヴ

神秘の代行者アース：
アース
神聖なる球体：球

球球アスヴ

咲「わくあつという間にフィールドが埋まった…」

京太郎「こっからが本番！あらわれよ！光を導く未来回路！」

召喚条件は、天使族モンスター2体以上！俺は、球体2体とスペルピアをリンクマークー
カーにセット！サーキットコンバイン！光来せよ！『天空神騎士ロードパーシアス』！

『天空神騎士ロードパーシアス』

リンク3／光属性／天使族／攻2400

【リンクマークー：左下／下／右下】

天使族モンスター2体以上

このカード名の(1)(2)の効果はそれぞれ1ターンに1度しか使用できない。

(1)：手札を1枚捨てて発動できる。「天空の聖域」のカード名が記されたカードまたは「天空の聖域」1枚をデッキから手札に加える。

フィールドに「天空の聖域」が存在する場合にはその1枚を天使族モンスター1体にする。

(2)：自分フィールドの表側表示の天使族モンスターが墓地へ送られた場合、自分の墓地から天使族モンスター1体を除外して発動できる。

除外したモンスターよりレベルが高い天使族モンスター1体を手札から特殊召喚する。

京太郎「ロードパースィアスの効果発動！天空の聖域があるからサーチするのは天使族だ！手札の『幽鬼うさぎ』を捨て、デッキから『大天使クリスティア』を手札に加える！」

咲「く、クリスティア!?それでさっきラッキーって…」

京太郎「ヴィーナスの効果でもう1体球体呼んで球体とアースをリンクマーカーにセット！こい！『水晶機巧—ハリファイバー』！効果で『灰流うらら』を特殊召喚！」

京太郎LP7000↓6500

京太郎「あらわれよ! 光を導く未来回路! 召喚条件は、効果モンスター2体以上! 『ハリアイバー』『うらら』『ヴィーナス』をリンクマーカーにセット! サークットコンバイン! こい! リンク4! 『トポロジック・ガンブラー・ドラゴン』!」

『トポロジック・ガンブラー・ドラゴン』

リンク4 / 闇属性 / サイバース族 / 攻3000

【リンクマーカー：上 / 左 / 右 / 下】

効果モンスター2体以上

このカード名の(1)(2)の効果は1ターンに1度、いずれか1つしか使用できない。

(1)：このカードが既にモンスターゾーンに存在する状態で、

このカード以外のモンスターがリンクモンスターのリンク先に特殊召喚された場合に発動する。

自分は手札を任意の枚数ランダムに捨てる(最大2枚)。

その後、捨てた数だけ相手は手札を選んで捨てる。

(2)：このカードがEXリンク状態の場合に発動できる。

相手は手札を2枚まで可能な限り選んで捨てる。

この効果で相手の手札が0枚になった場合、

さらに相手に3000ダメージを与える。

京太郎「さらに、手札から『闇の量産工場』発動！墓地の『球体』2枚を手札に加える！

仕上げ！墓地にはいま、天使族は『アース』『ヴィーナス』『球体』『スペルビア』の4体！光臨せよ！『大天使クリスティア』！

そしてクリスティアをチェーン1、ガンブラーをチェーン2で効果発動！

まずはガンブラーで俺の手札を2枚、ランダムに捨てる！…よし！落ちたのは『イーバ』と『球体』だ！そして咲！おまえにも手札を2枚、選んで捨ててもらおうか！

咲「じゃあ私は『おジャマジック』と『錬装融合』をすてるね？」

京太郎「うそだろ!?!とりあえずクリスティアで『アース』回収。で…」

咲「私のおジャマジックが発動するね」

京太郎「それでチェーン2で俺のイーバが発動するな。除外は…『球体』2枚でサーチは『緑光の宣告者』と『朱光の宣告者』だ！」

咲「チェーン1、おジャマ3兄弟をサーチするよ。」

京太郎「これで俺はターンエンドだ！」

京太郎（2ハンデス特殊召喚不可魔法無効1モンスター無効1…結構強い制圧のはずなのに嫌な予感がするんだよな…ハンデスはむしろ逆用されたし…）

現在の盤面

天空神騎士 ロードパーシアス：パ 攻撃力2400

大天使クリスティア：ク 攻撃力2800 守備力2300

トポロジック・ガンブラー・ドラゴン：ト 攻撃力3000

咲：LP 8000 手札6枚（内3枚がおジャマ3兄弟）

パ

クト

京太郎：LP6500 手札4枚（球体、ヴィーナス、緑光の宣告者、朱光の宣告者）

咲「私のターンだね。ドロロー。まずは『異次元の指名者』発動。宣言は『緑光の宣告者』だよ」

京太郎「うへえ…マイナーなカードを…しかも選択肢無えじゃんか…『緑光の宣告者』を除外な…」

咲「そして、手札から『ブラック・コア』を発動。手札を一枚捨てて、フィールドの表側のモンスターを一枚除外するよ。手札の『おジャマ・イエロー』を捨てて『大天使クリスティア』を除外」

京太郎「こりやまたマイナーなカードを…しかももうほとんど突破されてんじゃん…」

咲「更に『森羅の水先 リーフ』を召喚。効果発動。デッキの上から2枚カードをめぐつてその中の植物族を全部捨てるよ。どうする？」

京太郎「…通した。(魔法も多いみたいだし、おジャマまで入ってるし、何の意味もなくなる可能性のほうがかたい…でもそれならなんであんなカード入れてるんだ?)」

咲「わかった。で、デッキの上のカードは…『裏ガエル』と『森羅の姫芽君 スプラウト』だね」

京太郎「うげ…ん? 裏ガエル?」

咲「『裏ガエル』はデッキの一番下に送られて、『姫芽君』の効果発動。森羅のみんなは基本めくられて墓地に送られた場合に効果が発動するよ。『姫芽君』の効果は8以下のレベルを宣言して、自身をそのレベルにして特殊召喚する効果。宣言は『7』ね」

京太郎「チェーン2。手札の『朱光』と『球体』を捨てて『姫芽君』を無効だ」

咲「あれ? もう使うの? チェーン3手札の『森羅の賢樹 シャーマン』の効果発動。自

身を特殊召喚する。逆順処理で姫芽君は無効だね」

咲「墓地の『錬装融合』の効果発動。このカードをデッキに戻し、1枚ドロウする。ドロウ。ドロウカードは『ワン・フォー・ワン』。そのまま発動。」

京太郎（今使うのか？ターン開始時でもなく次のターンでもなく？）

咲「『おジャマ・ブラック』を捨ててデッキから『コピー・プラント』を特殊召喚。効果で『シャーマン』のレベルをコピー」

京太郎「レベル7のモンスターが2体…来るぞ！遊馬！」

咲「もう…遊馬さんなんてここにはいないでしょ…レベル7の『シャーマン』と『コピー・プラント』でオーバーレイ」

咲「われらが森に立ち入るものに、裁きの鉄槌を！エクシーズ召喚！来て！『森羅の鎮神 オレイア』！」

京太郎（ん？確かシャーマンの効果でも1枚だけだけどめくって墓地送り出来たよな…なんでスルーしたんだ？）

咲「『オレイア』の効果発動。オーバーレイユニットを一つ使い、デッキの上から4枚めくり、その中の植物を全て墓地に送り、その数まで、相手のカードを手札に戻すよ。」

『コピー・プラント』を使用して効果発動」

咲「1枚目！『狂戦士の魂』！魔法カード！」

2枚目！『森羅の実張り ピース』！植物族！

3枚目！『ダンディ・ライオン』！植物族！

4枚目！『パペットプラント』！植物族！

三枚墓地に送って京ちゃんのフィールドのカードを全てエクストラデッキと手札に戻すよ！」

京太郎「さつきから驚きすぎてもうマヒしちゃったよ……」

咲「そして今墓地に送られた『ダンディ・ライオン』の効果チェーン1、『ピース』の効果チェーン2で発動するよ。逆順処理でまず『ピース』の効果で墓地のレベル4以下の植物族、『コピープラント』を特殊召喚。チェーン1、『ダンディライオン』の効果で『綿毛トークン』を特殊召喚。『コピー・プラント』の効果発動。『リーフ』のレベルをコピーして3にする。

レベル1『綿毛トークン』をレベル3『コピー・プラント』でチューニング！シンク口召喚！お願い！『魔界闘士バルムンク』！ってあれ？」

現在の盤面

森羅の水先 リーフ：リ

コピー・プラント：コ

綿毛トークン：綿

森羅の鎮神 オレイア：オ

リコ綿綿□

オ □

□ □ □ □ □ □

京太郎 「咲…エクストラモンスターゾーン埋まってるぞ…」

咲 「えくすとらもんすたーぞーん？なにそれ？」

京太郎 「そこまで知らなかったのか!?エクストラデッキから出すモンスターを置くと
ころだよ！だからリンクモンスターのリンク先が特殊にエクストラモンスターが出せ
るってわざわざ言うんだぞ!」

咲 「へーじゃあ『ジャスミン』に頼めば…うん…ああなつて…よし!」

咲 「現れて！緑を縁取るサーキット!」

京太郎 「へ!」

咲 「召喚条件は、植物族モンスター2体！私は、『綿毛トークン』と『オレイア』をリ
ンクメーカーにセット！サーキットコンバイン！来て！『アロマセラファイージャスミ
ン』!」

改めて綿毛トークンとコピー・プラントでチューニング！来て！『魔界闘士 バルム

ンク！

『ジャスミン』の効果発動。『リーフ』をリリースして、デッキから『ローンファイア・ブロッサム』を特殊召喚する！そのモンスターの効果で自身をリリースして『森羅の番人オーク』を特殊召喚！

咲「『オーク』の効果発動。

一枚目。『異次元の精霊』

二枚目。『ブラックホール』

三枚目。『貪欲な壺』

全部違うからデッキの一番下に戻すね」

京太郎（これまで散々当たってたのに、急に？）

咲「バトル！『ジャスミン』『オーク』『バラムンク』の順に総攻撃！」

京太郎LP6500↓4700↓2300↓200

京太郎「ぐっ：でもライフはぎりぎり残る！」

咲「これで私はターンエンドだよ！」

現在の盤面

アロマセラファイージャスミン：ア 攻撃力1800

森羅の番人 オーク：オ 攻撃力2400 守備力1500

魔界闘士バルムンク：闘 攻撃力2100 守備力800

咲：手札1（おジャマグリーン）LP8000

□□□才闘

□ ア

□□□□□

京太郎：手札2（神秘の代行者 アース、天空の聖域）LP200

京太郎（ライフはぎりぎり残ったけど：手札は2枚、一応咲の盤面を更地にしつつ『デコード・トーカー』だとそこらまではいけるけど、あんな綺麗な制圧はがしからの展開見たらすぐ残りライフ削られそうなんだよな…。このドローにかけるしかないか）

京太郎「俺のターン！ドロー！」

ドローカード：『貪欲な壺』

京太郎「（よしっ！）魔法カード！貪欲な壺！墓地の『イーバ』『朱光の宣告者』『幽鬼うさぎ』『灰流うらら』『水晶機巧ーハリフアイバー』をデッキに戻して2枚、ドロー！」

ドローカード：『マスターヒュペリオン』『星遺物を継ぐもの』

京太郎「（えぐいほど引きがいい…）『天空の聖域』を発動してから『神秘の代行者アース』を召喚！効果で『マスターヒュペリオン』手札に加え、その効果で墓地の代行者、『ヴェーナス』を除外して特殊召喚する！そしてマスターヒュペリオンの効果発動！

墓地の天使を1体除外し、相手フィールド上のカードを一枚破壊する。この効果は『天空の聖域』が存在するとき、1ターンに2度発動出来る！墓地の『球体』と『イーバ』を除外し、『オーク』と『ジャスミン』を破壊する！サン・ジャッチメント・エイジエント！」

咲「っ！」

京太郎「『アース』と『ヒュペリオン』でリンク召喚！来い！『水晶機巧—ハリファイバー』！効果で灰流うららを特殊召喚して、その2体でリンク召喚！来い！『デコード・トーカー』！」

京太郎「更に手札から『星遺物を継ぐ者』発動！墓地から『墮天使スペルビア』をデコード・トーカーのリンク先に特殊召喚する！そして『スペルビア』の効果で墓地から『ヒュペリオン』をリンク先に特殊召喚！リンク先が2つ埋まったことにより、デコード・トーカーの攻撃力が10000アップ！」

デコード・トーカー 攻撃力2300↓3300

咲「でも、これで墓地の天使は『アース』のみ！ヒュペリオンの効果を使ってもライフは残るよ！」

京太郎「これほどちょうどいい状況もなかなかないな…『それはどうかな？』」

咲「え？」

京太郎「手札のもう一体の『マスターヒュペリオン』の効果！墓地の『アース』を除外して特殊召喚！」

京太郎「これで打点は足りたな？バトルだ！マスターヒュペリオンから始めて、総攻撃だ！」

咲LP 8000 ↓ 7400 ↓ 4700 ↓ 1800 ↓ 1500

咲「きやく！…負けちゃったかあ」

京太郎（…なんとなく、この決闘での咲の意図がわかった気がする。その根本にある、心の闇も、上っ面だけ。）

京太郎「いやーやっぱ劣勢からの逆転は気持ちいいなあ」

京太郎（その心の闇は、咲自身も心の奥にしまつて思い出さないようにしているんだろう。でも、それじゃだめだ。目に見えるぐらいに日常に影を落とすほど、その影響はでかい。）

京太郎「でもよ、咲」

京太郎（ここから先はバクチとハツタリの勝負…）

京太郎「なんで、勝ちを譲ってくれたんだ？」

京太郎（咲の心の闇を、暴いて消し去る！）

疑念　そして再戦

京太郎（まずさっきの決闘での違和感を並べると…

・何故か途中まで残された『錬装融合』

・明らかに『森羅』とシナジীরなさそうな『おジャマ』『裏ガエル』

・の割に森羅の効果で当てまくっている。

・スルーされた『シャーマン』の効果。

・急に当たらなくなった『オーク』。

・『異次元の指名者』の宣言が『緑光の宣告者』

・最終的な俺のライフが200：いわゆる鉄壁、がけつぶち状態。エクストラモンスターゾーンののごたごたがなかったら100だった。

・新マスタールールは知らないのに持っているリンクモンスター

・『一撃必殺！居合ドロー！』が確実に当たるかのような口ぶり。

・えぐい程よかったラストターンのドロー

そして決闘外では、引き寄せまくっているオリジナルカード

この情報を纏めて、とりあえず、咲が手加減したことを認めてもらおう。それがまず

第一段階

咲「な、なに言ってるの？京ちゃん？」

京太郎「まず最初の違和感は、『おジャマジック』だ。そんなカードは普通『森羅』の中には入れない。『裏ガエル』も同様だ。」

咲「どんなデッキ組もうと、人の勝手にしょ？私の仲間達を馬鹿にするつもり？それに、なんでそれが私が手加減したことになるの？」

京太郎「そのデッキを組んでおまえが使いこなせているからだ。馬鹿にするつもりはない。それに、それならなんで『シャーマン』の効果のスルーしたんだ？」

咲「当てられる気がしなかったからだよ。私のデッキの植物率知ってるの？」

京太郎「知らない。でも、『リーフ』『オレイア』は当ててたろ？つまり、咲は時折いる『特殊な決闘者』かと思っただよ。あんな勢いでオリジナルカード引き寄せる決闘者なら、むしろそうでないとおかしい。」

咲「…へえ？」

京太郎「その2枚と『シャーマン』の差は、たぶん『2枚以上かどうか』。そして『鍊装融合』、『一撃必殺 居合ドロー！』のことも考えると、咲。お前は『デッキの一番上以外を操作する力』を持っているんじゃないか？」

咲「…さすが京ちゃん。正解だよ。でも私は全力で戦った。手加減はしてないよ。」

京太郎「でも、じゃあなんで『オーク』を外したんだ？」

咲「…発動制限が、あるんだよ。1ターンに3回までしか使えない。」

京太郎「で残りの1回は『錬装融合』に使ったと…でも、じゃあなんで『異次元の指名者』で『緑光の宣告者』を宣言したんだ？」

咲「っ！『ブラック・コア』で、『クリスティア』を、除外したかったから、だよ」

京太郎「でもおかしいな。ちらりと見えたお前のデッキには、『森羅の水先 リーフ』と『森羅の影胞子 ストール』がそれぞれ3枚ずつあった。『朱光の宣告者』を除外して、『リーフ』で『リーフ』を墓地に送って『クリスティア』破壊、『オレイア』で『パペツト・プラント』の代わりに『ストール』を墓地に送って『天空の聖域』を破壊すれば、もつと追い詰められた。ドローは『クリスティア』固定、手札は『緑光の宣告者』『神聖なる球体』『神秘の代行者 アース』。非公開情報は何一つなく、公開情報では突破できない。完全に詰みってやつだな。もちろん、『緑光の宣告者』で止められたけど、それをした場合も言わずもがな。今回と同じような結末から、手札から『アース』が消える形になる」

京太郎「それに、最後の俺のドロー、どこまで干渉できるのか知らないけど、あれも咲の仕業じゃないのか？」

咲「っ…」

京太郎「俺はな、咲。ただ決闘がしたかったただけなんだ。確かに楽しかったけど、そ

れじゃお前が楽しくないだろ？」

咲「っ!!」

——咲に手加減されたって何にも楽しくないよ！さっさといつもみたいに黒いカードとか出してよ！——

——咲、勝つための決闘をしなさい。強い決闘者は、その力をふるう義務があるのよ

咲（私は…また…決闘で…人を傷つけてしまう…）

京太郎「そんな決闘をするようになったきっかけていうものがあるんだろ？新マスタールールを知らないのにリンクモンスターを持っていた所から見ると、強すぎるカードと運で疎まれたと推測するんだが…教えてくれないか？お前の心を、少しでも軽くしてやりたい。」

咲「嫌…嫌…嫌…!!」

京太郎「っ！（結論を急ぎすぎたか!?第二段階の話聞きだすのはもう少しゆっくりやればよかったか!?)」

咲「イヤーー!!」

ペラッ

京太郎（ん？なんだ？このカード）

『アルカナフォースXXI―THE WORLD』

ピカーーー!

京太郎 (なんだ!?!この禍々し…くはないけど黒ずんだ光は!)

咲? 「その小童…我と決闘しろ…」

京太郎 「…咲?」

咲? 「咲ではない…我はアルカナフォースXXI―THE WORLD」

THE WORLD 「なんだ?この非効率なデッキは…20枚程削ってやる…」

バサア!

京太郎 「!咲のカードを!」

THE WORLD 「ならば小童…そのカードをそなたが使うか?使いこなせる道理などありもしないが…」

京太郎 「っそれは…(チラッ)」

捨てられたカード

隣の芝刈り

グローアアップ・バルブ

ダンディ・ライオン

ジェット・シンクロン

スキル・プリズナー

ブレイクスルー・スキル

・
・
・

京太郎（！汎用的な墓地発動系のカードばかり！これはたぶん…そしてあいつもたぶん…）

京太郎 「ああ、いいぜ…咲のカードをつかった決闘…受けてやるよ…」

京太郎（何はともあれ第三段階である『心の闇の解消のための決闘』に限りなく近いんだ…不安なのは俺の実力不足…おれの本物のデッキを使うがそんなに変わんねえ…）

京太郎 「遊星さん…城之内さん…咲のカード…力を、貸してください…！」

「決闘!!」

京太郎 LP 8000

VS

THE WORLD LP 8000